



戸上中だより

No.8 千曲市立戸倉上山田中学校

【特集】全国学力・学習状況調査の結果について

今年度の全国学力・学習状況調査（中三対象，4月実施）の結果を踏まえ，本校の調査結果を分析しましたので，その概要と改善の取り組みについてお知らせします。

1 各調査の結果

国語A，国語B，数学A，数学B，生徒質問紙の5種の調査に，今年度から理科が加わり，合計6種の調査が行われました。それぞれの結果をもとに，本校の状況の概略をまとめます。

国語A (主として 知識)	平均正答率は全国平均並み。「話すこと・聞くこと」は全国平均に比べ，同程度。一方で，「書くこと」はやや下回り，「読むこと」は，下回っている。問題形式で見ると，「選択式」は過年度に比べ上昇傾向にあるが，「短答式」は下降傾向にある。
国語B (主として 活用)	平均正答率は全国平均並みであり，過年度に比べ上昇傾向にある。また，国語Aの傾向と類似している傾向であるが，「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや上回っており，昨年度に比べ，飛躍的に伸びている。一方で，「書くこと」「読むこと」に関しては全国平均と同程度ではあるが，「話すこと・聞くこと」に比べると課題である。
数学A (主として 知識)	平均正答率は全国平均並み。過年度と比べても上昇傾向にある。また，「数と式」では全国平均並みの結果となり，過年度と比べても上昇傾向にある。一方で「資料の活用」では全国平均を下回り，大きな課題であると考えられる。年間授業計画の中で1～3月に行われる「1年資料の活用」「2年確率」の授業時数を十分に確保したい。 「数学的な技能」では過年度と比べ，上昇傾向にあるが，「知識・理解」がやや下回る。用語を正しく覚える，使いこなすことを意識した授業が必要であると考えられる。
数学B (主として 活用)	平均正答率は全国平均をやや下回る結果となった。数学Aと同様，「数と式」では上昇傾向であるものの，「資料の活用」の下降が課題である。また，問題形式によって正答率の全国平均との差に偏りはないが，正答率自体で見ると，「記述式」が30%を下回り課題がある。高校入試の傾向を見ても，「事実」「方法」「理由」の三観点に分けて，説明を記述する必要のある授業の展開を意識的に取り入れていきたい。
理科	平均正答率はやや下回る結果となった。過年度との比較ができないが，「知識」よりも「活用」に関する問題に課題がある。分野別で見ると，「物理」「科学」「地学」では全国平均と同程度であるものの，「生物」では下回る

	結果となった。また、観点別でみると、「観察・実験の技能」では全国平均をやや上回る結果となったが、「関心・意欲・態度」では下回った。問題形式では「選択式」に比べ、「短答式」「記述式」に課題が残った。
生徒 質問紙	<p>【よい面】 全国・県平均を上回った質問の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがある」、「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「将来の夢や目標を持っている」 ・「毎日、同じ時間に起きている／寝ている」 ・「地域の行事に参加している」、「人の役に立つ人間になりたい」 ・「地域社会などでボランティア活動に参加している」 <p>【注視すべきと思われる面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家で学校の授業の予習・復習をしている」、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒が少ない。 ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」に対して、学習時間が県平均、全国平均に比べて、少ない。 ・新聞を読んでいる生徒が少ない。

4年前からドリル学習に力を入れ、授業やつばさタイム SP（水スペ）等でドリルを利用した復習を行ったり、質問があれば教科の先生のところへ聞きに行き個別指導を積み上げたり、これらのことが、基礎的・基本的な内容の定着を図ることにつながる成果になったと考えられます。今年度の3年生では、地域の方々と連携して、つばさタイム SPの時間に基礎の定着を図る指導を希望者で行っています。

国語 B や数学 B 問題でも分野によって成果が見られることから、知識や技能を日常に活用する力が少しずつ伸びてきているといえます。これは、各教科において授業改善に取り組み、評価テストでも活用力を問う問題（記述式、理由を問う問題、方法を問う問題等）を出題するなど、活用する力をつける取り組みを日頃の学習において少しずつ取り入れている成果であると考えられます。

生徒質問紙では、家庭や地域の皆様に様々な行事や日ごろの生活の中で関わりをもつていただき、生徒たちを認めていただいていることが結果に表れていると考えられます。しかし、学力向上に向けての改善点として、「予習、復習の充実」「家庭学習の意識の向上」などが挙げられるため、秋に行った「学力向上講話」でも、家庭学習の有用性について、全校に向けて発信してきました。次年度の課題として、捉えていきたいと思いません。

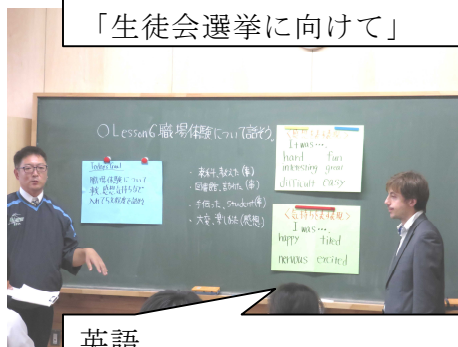
2 結果を指導に生かす取り組み

- 国語科では、お互いの考えを伝え合い、一つのテーマに対して多角的に捉えるためのグループワークや全体討議を取り入れた授業づくりを研究しています。また、日ごろの家庭学習の中で、斜面をもとに、「自分の考えや意見を持つ」ことの指導も継続的に行っています。
- 数学科では、教師や生徒が授業の中で使う用語や、問題を解く中で生じる因果関係を正しく言えるように意識して授業を展開しています。また、家庭学習等では、県総合教育センターから配信されている「クリア問題」「チャレンジ問題」「レビュー問題」を使い、日常事象を数学で考えたり、自分の考えを適切な言葉や式などで説明したりする課題に取り組む経験を積むようにしています。
- その他の教科でも、授業改善の取り組みを進めています。社会科では、全教科担任の授業を指導主事に参観していただき、「協働的な学び」の在り方についてご指導をいただく時間を設けました。英語科では、会話活動の研究を行っており、生徒たちは友から質問される事柄に即興で応えたり、他己紹介を即興で行ったり、また英語で表現しにくい文章や単語を自分が知っている文章や単語に変換して表現する活動に取り組んできました。また、2年生の特別活動では、生徒会選挙に向けた取り組みとして、現在の戸上中の実態を捉えたり、自分たちが創り上げたい生徒会の姿について意見を交わしたりする中で、選挙や生徒総会への意識を学年全体で高めてきました。



特別活動

「生徒会選挙に向けて」



英語

「職場体験について話そう」

今年度も、職員の授業改善・授業力向上の取り組みとして、これらのような生徒たちが協働的に学ぶことを通して学びが深まる授業を実践し、教科内もしくは異教科のグループ内で授業を見合う取り組みを進めています。

今後も、これからの社会を生きる生徒たちにつけるべき力を決めだし、生徒たちが主体的に学習に

取り組み、対話的な活動を通して学びが深まる授業を目指して、取り組みを進めていきます。

3 ご家庭へのお願い

学力向上のための手だての一つとして、学習計画・記録欄を充実させたオリジナルの生活記録ノートを使用しています。授業内容と家庭学習とをできるかぎりリンクさせることや、見通しをもって家庭学習ができるようすることを目的として取り組んでおります。そして、「授業で家庭学習のアドバイス」→「つばさタイム『家庭学習計画タイム』で計画」→「家で実践し、振り返る」→「次の日に点検」というサイクルを実施しています。

また、本校に限らず、学力の向上のキーワードとして、「家庭での過ごし方」「予習・復習の意識向上」も、学力に大きく関わってくることがわかってきています。

毎日決まった時刻に寝たり起きたりする習慣や、家庭学習にきちんと取り組む習慣、学校のきまりを守る等、当たり前なのにきちんと取り組めることが学力の向上につながります。携帯電話やスマートフォンの使用頻度が高いほど学力が低い傾向も指摘されておりますので、この機会にお子さんの家庭生活を見直していただくとありがたいです。

1年生は中学生として初めての一年間の学習の締め、2年生は受検に向けた学習の見直し、3年生は受検シーズン本番をこれから迎え、地道に学習を積み重ねることの大切さを実感しています。是非、ご家庭でも、お子さんの学習の様子を見守っていただき、必要に応じて声掛けをしていただけるとありがたいです。

(文責：研究主任・学力向上担当 松橋 彰行，編集責任者：教頭 高橋 和美)